

電話会議開催日：2024年8月7日

2025年3月期（2024年度）第1四半期 電話会議 質疑応答（要旨）

【大型プロジェクトの状況について】

Q) ランプアップ中の大型プロジェクト（ケブラダ・ブランカ銅鉱山（チリ）とコテ金鉱山（カナダ））の状況は？

A) ケブラダ・ブランカ銅鉱山について、オペレーターである TECK 社は、直近決算発表において、一時的な要因による進捗の遅れから、2024 年度の生産計画の下方修正と想定コストの上昇を発表した。しかし、2024 年 12 月にフル操業に到達するという目標は変えていない。コテ金鉱山については、日本時間 2024 年 8 月 5 日にリリースしたとおり、当社と IAMGOLD 社がプロジェクト開始当初から決めていたマイルストーンである「商業生産※」に到達した。こちらも 2024 年 12 月に設計能力の 90%に到達するという目標は変えていない。
※連続 30 日間の選鉱処理量の平均値が設計値の 60%以上になったこと。

【大型プロジェクト効果の利益貢献について】

Q) 大型プロジェクトによる損益貢献の見通しは？

A) 2024 年 5 月に発表した 2024 年度通期業績予想では、前年度実績対比で+225 億円の好転を見込んでいた。今回（8 月）の通期業績予想において、足元のプロジェクトの状況をふまえて損益を試算したが、金属価格（銅、金）の上昇もあり、5 月予想時点から変更はなかった。損益貢献はランプアップが進む年後半からを想定している。なお、持分法投資損益の段階では、ケブラダ・ブランカ銅鉱山の損益が悪化しているが、その要因として当社グループへの支払金利が含まれているため、連結ベースでは損益貢献の水準はほぼ変わらないと想定している。

【コスト単価差の悪化について】

Q) 8 月通期予想のコスト単価差が 5 月通期予想に対し大きく悪化した理由は？

A) 海外銅鉱山が大きな要因となっており、具体的には、モレンシー銅鉱山とセロベルデ銅鉱山の影響が大きい。モレンシー銅鉱山は、人手不足による採掘量の減少や品位低下の影響を受けている。また設備の安定稼働にむけたメンテナンス費用の増加も想定している。セロベルデ銅鉱山は、上期の実績を踏まえ、当社が考えるリスクを織り込んだ結果、操業コストが上がる想定している。

【製錬セグメントの損益について】

Q) 第 1 四半期実績に比べ、第 2 四半期以降は減速する予想だが、その理由は？

A) 第 1 四半期においては、銅系、ニッケル系ともに金属価格は上昇し、為替は円安で推移したことで、在庫評価影響が損益を押し上げた。一方、第 2 四半期以降は、第 1 四半期に比べ、金属価格は下落し、為替は円高に進むことを想定しているため、銅系、ニッケル系ともに在庫評価影響の悪化が損益を引き下げると想定している。

【材料セグメントの損益について】

Q) 電池材料事業について、生産状況、販売状況を教えてほしい。

A) EV 市場は、メーカーや車種によりバラつきはあるものの堅調と見ている。当社の生産計画に変更はなく、フル生産に近いと言ってよい状況。当社製品の出荷も堅調。一部、生産調整が報じられており、たちまち影響が出

る状況ではないと考えているが、状況は注視している。建設中の工場も、5月の説明の通り、顧客の要請に基づき、一部設備で2024年度第4四半期からの生産開始を目指している。

Q) 2024年度第1四半期のセグメント損益は、2023年度第4四半期から大きく回復している理由と、材料セグメントの損益（通期8月予想）が5月予想対比+50億円へ増益となる要因は？

A) 2023年度第4四半期のセグメント損益には、子会社株式譲渡による一時的な損失（-64億円）が含まれており、2024年度第1四半期にはその一時的な損失が剥落したことが大きい。なお、電池材料事業では堅調な需要が続いている。加えて、機能性材料事業において、長引いていた電子部品向け部材の在庫調整が進み、需要が緩やかながらも回復基調に転じたことが大きい。

Q) 回復はまだら模様で、再び在庫調整に入る製品群もあるという説明だったが、具体的に教えてほしい。

A) 生成AI向けの製品群は年間を通じて堅調と想定しているが、その他、例えばスマートフォン向けの部材などは需要回復が鈍く、第2四半期、第3四半期は在庫調整に入り、第4四半期から緩やかな回復基調になると想定している。

Q) 材料セグメントの損益について、第2四半期以降は再び赤字になる想定だが、その理由を教えてほしい。

A) 機能性材料事業の一部製品群が再び在庫調整に入り、第2四半期から第3四半期は減速し、第4四半期に緩やかな回復を想定している。また、SiC（シリコンカーバイド）の開発費用の増加や、電池材料事業でも新居浜の新工場生産開始に伴い、その先行費用が増えると想定している。

【足元の事業環境について】

Q) 足元、金属価格や為替相場が大きく動いている。現時点の銅価格や為替レートは8月業績予想の前提よりも、弱い滑り出しになっている。大型プロジェクトを含め、業績にどのような影響があるか？

A) 8月業績予想の前提となる金属価格、為替相場の変動による業績予想への影響は、補足説明資料18ページに感応度を記載しているので、参照いただきたい。なお、感応度には、在庫評価影響を含んでいない点にご留意いただきたい。大型プロジェクトについては、ランプアップにおけるコストの上昇を金属価格の上昇でカバーする想定なので、もし前提となる金属価格よりも価格が下がれば、業績へは悪い影響を与えることになる。

Q) 中国の銅製錬事業者の増産により、銅精鉱のスポットのTC/RCが下がっているが、この条件変化による今後の影響は？

A) まず、銅精鉱の需給環境は、一部銅鉱山の生産停止や新規銅鉱山の稼働遅れなどもあり、供給増は限定的だが、一方で、新しい製錬所の立ち上がりによる旺盛な需要がある。そういった需給環境を背景に、スポットのTC/RC（製錬所が受け取る加工収入）の水準は過去最低を大きく下回って推移している。このような状況では、耐えきれず減産する製錬所が出てくるということも考えられるが、旺盛な需要を背景に需給環境は緩みにくいと思われる。その場合、今年末のTC/RC条件交渉への影響は避けられないため、状況は注視している。しかし、製錬所の取り分が減るということは、鉱山側の取り分が増えるということ。使用する銅精鉱の全てではないが、自社鉱山権益を有する当社グループとしては、鉱山側の利益増加により、製錬側の利益減少が緩和されることになる。

以上